# 令和６年度　海外インターンシップ報告書

| | |
|---|---|
| 実習期間 | 令和　6 年　9 月　4 日(水) ～　9 月　7 日(土)　　4 日間 |
| 実習企業 | 株式会社ユウワ |
| 実 習 地 | ベトナム |

## 1. 実習目的　Chapter1 purpose

近年、世界的に見ても発展を遂げているベトナムに支社や工場を建設する日本企業が多くなっている。そのような現場を実際に見学することで、現地の雰囲気や人柄など様々なことを学び取り、世界で活躍できる人材の育成を目的としている。

## 2. 実習先概要　Chapter2 summary of company

実習先は長野県小諸市に本社を持つ株式会社ユウワである。プラスチック成型用金型設計、製造やプラスチック成型加工を事業とした会社である。本社以外にも、中国、ベトナムに合弁会社や工場を持っている。今回はその中でもベトナム工場及び合弁会社の見学をさせていただいた。

## 3. 実習日程　Chapter3 schedule

9 月 4 日から 9 月 7 日にかけて行われた。9 月 4 日午前中に飛行機に乗り、ベトナムへ入国、9 月 7 日の日付変更時間付近に飛行機に乗り、日本へ帰国した。

## 4. 実習内容　Chapter4 laboratory

初日は、14 時ごろにベトナムへ到着し、その後 Vitexco タワーを見学した。夕食後ホテルへ移動し、初日は終了した。2 日目は、株式会社ユウワが持つベトナム工場、合弁会社の見学をした。また、ベトナムへと進出した日系企業の見学を行い、2 日目は終了した。3 日目はベトナム戦争の際戦場となったクチトンネル見学を行い、その後ジェトロホーチミンに伺った。ジェトロホーチミンにてベトナムでのこれからを聞いた後は、ヒューテック大学へと赴き、日本ベトナム両国間についてプレゼンテーションを行った。最後にベトナムのマーケットを散策してインターンシップは終了した。

## 5. 実習の成果（成長した事） Chapter5 result

成長したこととして、まず異文化に対して少しは寛容になれたのではないかと感じている。例えば、ご存じの方も多いかもしれないがベトナムでは道を埋め尽くすほどのバイクが走行している。右の写真はベトナムで実際に撮影した写真である。インターンシップ期間の最初の方は、その勢いに圧倒されていたが、最終日に近づくにつれ、日常のような風景になっていた。このように、日本で見聞きしたことはあっても、実際に行くことでさらなる自身の経験値として蓄積することができる。このような点で異文化に対して寛容になれたのではないかと感じた。

次に、海外で働くことについてより鮮明に理解できたと感じている。具体的に述べると、海外で働こうと思ったとき住居はもちろん職場環境などイメージができないことが多々あると思う。私自身そのような感想を抱いている。しかし、今回ベトナムの工場や会社を見学させていただいたことで、具体性が高まったように感じる。例として、ベトナムの工場では食堂が用意されており、多くの社員がそこで昼食を食べている。しかしベトナム料理がここまで癖のあるものだとは思いもよらなかった。このように私自身では想像も及ばないようなことが多々ある。

3 つ目に、東南アジアについてより詳しく知ることができた。例として、東南アジアは 1 年間を通して温暖で過ごしやすい環境と言えるかもしれない。しかし、虫の侵入を許さない会社、今回見学させていただいた生化学製品を製造している会社はその会社であり、衛生環境を保つことが非常に難しいと仰っていた。また、雨が非常に多く、インフラもまだ発達していないため、交通の便が非常に悪い。もちろん東南アジアの国々がすべてそうとは言えないが、地理的な条件は似ていると言える。右の写真は、ベトナムの街路樹を撮影した写真である。この写真からはわかりづらいかもしれないが、日本の街路樹と比べて非常に高くなっている。また、路上に多くの屋台が開かれていたり、バイクが普通に歩道に止めてあったりと、日本ではなかなか考えられないことが日常的に見受けられる。将来的に実際に私が働く場所を考えるうえで、このような経験をもとに考えることができ、キャリア形成に非常に役立ったと言える。

## 6. 今後の課題 Chapter6 problem

私自身の今後の課題として、まずさらなる異文化への理解である。これから私がどのようなキャリアを作っていくのかまだわからないが、海外との連携は避けられないと考えている。その理由として、このインターンシップの目的にも書いたが、日本の企業の支社や工場の海外移転が多く行われていることだ。人件費の安さが売りとなり、これからも特に製造業は工場建設が進むのではないかと考える。また、日本から出ることがな

いとしても、外国人が多く日本へと流入してきている。最近では、観光客だけでなく、日本で就職し働いている人も見かけるようになった。そのような人々とともに働く場合、彼らの文化への尊重が必須となる。このように、国際化が進む現代において、異なる文化への適応は必須となるに違いない。

次の課題として、基本的なことであるが、言語能力が課題である。これはネイティブレベルというわけではなく、日常会話をできるレベルにまで言語能力を上げる必要があると考える。しかし、英語が通じる社会ならまだしも、今回のベトナムのように英語が通じにくい社会では日常会話レベルは難しいとも考えられる。そのような場合であっても、最低限挨拶は学んでおくべきである。現地の社員との交流が必須となり、早く距離を縮めるためにも現地の言語を少しでも学び、できるならさらに会話レベルを上げる必要がある。

3つ目の課題として、もし海外で働くとなった場合、その土地で暮らしていけるかを十分に考える必要がある。今回はインターンシップということで、期間も短く楽しむことができた。しかし、長期間となるとどう感じるかわからない。実際、食事の面では日本がとても良いと感じた。加えて、今回の機会では会社の方がホテルを用意してくださり、そこに宿泊させていただいた。一方、海外に在勤する場合、アパートなどを借りて暮らすものだと考えている。その際、どれほど暮らしやすいのか全く見当がつかない。また、気温に慣れることができるのかという問題も存在する。ベトナムでは基本的に温暖であり、日本ほどの明瞭な四季は感じられない。そのため暑さが苦手や、季節の移り変わりが好きなどの場合、向いていないかもしれない。このように多様な視点で考える必要がある。

## 7.海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言 Chapter7 Advice

ぜひ行ってみてください！

もちろん行く前に様々な不安はあるかもしれません。しかし、留学のように語学要件はなく、気軽に行くことができます。百聞は一見に如かずというように行ってみないとわからないことも多々あります。

改めて、この機会を逃すことなく一歩踏み出してみてください！何か得られても得られなくてもこれからのキャリアの礎になるはずです。

## 8. 謝辞 Chapter8 Address of gratitude

株式会社ユウワ様、この度はインターンシップを受け入れてくださり誠にありがとうございました。今回が私の初めての海外渡航であり、とても緊張しましたが優しく教えてくださり何事もなく日本へと帰国することができました。また、ベトナムの工場にて様々なことを細かく教えてくださり、専門分野ではない私でも理解することができました。この機会はきっとこれからの私自身のキャリアへと良い影響を及ぼすと強く思います。実際にベトナムに1度行ったことにより、東南アジアの雰囲気を知ることができ、マレーシアへの順応も少し早くできたのではないかと感じています。

またこのインターンシップに関わってくださった長野県の皆様、大学の皆様、誠にありがとうございました。長野県へと還元できるよう努めたいと思います。

改めて　この度は貴重な機会を提供いただき、ありがとうございました。社会に貢献できる人材となれるよう精進いたします。